

2022年05月10日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【プーチン露大統領の演説で思うところ】

昨日(2022年5月9日)は、1945年のナチスドイツに対する勝利を祝うロシアの「戦勝記念日」だった。

このロシアの「戦勝記念日」に、プーチン露大統領が演説を行うことで、世界中が注目した。

『その演説で、プーチン露大統領が「戦争状態」の宣言を行うのではないか?』

『その演説で、「戦争状態」の宣言を行い、ロシアがさらに大規模の軍事行動を行うのではないか?』

といった疑念があったから、世界中が注目したのだ。

幸いなことに、「戦争状態」の宣言はなかった。

このようなことで、幸いなこと、と言って良いのか、大いに悩む。

+++++

また、この演説で、具体的な戦果にも触れることは無かった。

ただし、プーチン露大統領は、ロシアのウクライナへの侵攻を「唯一の正しい決定」とし、自己を正当化し、欧米への不満を強調した。

+++++
+++++

プーチン露大統領が「戦争状態」の宣言を行わなかったことで、ウクライナでの戦闘が、より一層に酷い状態になる事態は避けられた。

ただし、戦闘状態がさらに続き、長期化する可能性は高くなった。

米国を筆頭に、ウクライナへの武器等の軍事支援は拡大している。

なおかつ、それ(ウクライナへの武器供与)は、今回の事実上のロシア・ウクライナ戦争が長期化する原因でもある。

換言すれば、それ（ウクライナへの武器供与）が無ければ、ロシアの思い通りに終結していたのだろう、と思料する。

++++
++++

しかしながら、この事実上のロシア・ウクライナ戦争が長期化することは、決して良いことではない。

欧米を中心に、ロシアに対する経済制裁は拡大する方向にあるが、それ（ロシアに対する経済制裁）は、ロシアを疲弊させるであろうが、同時に、経済制裁を科す側も疲弊させる。

なおかつ、経済制裁は、その実効性が現れるまでに時間がかかる欠点を伴う。

++++

軍事的な支援（＝武器供与）にしても、その負担（＝資金）は莫大だ。

ロシアがウクライナへ侵攻するのに莫大な戦費がかかっているのだろうが、ウクライナへの軍事的な支援（＝武器供与）を行う側も、大きな費用（＝事実上の戦費）を負担しなければならない。

つまり、消耗戦だ。

本来ならば、それぞれの国で、福祉や教育や様々なサービスに使うことができる資金が、戦費として消耗（浪費）されている訳だ。

非常に残念なことだ。

++++
++++

ロシアのウクライナへの侵攻が、今年（2022年）の2月24日だったのだから、すでに、2か月を超える。

しかしながら、まだ、出口（戦争の終了）が見えない。

マーケット（金融市場、外国為替市場、商品市場など）は、この戦争状態に慣れてきた様子で、ウクライナ情勢に対する感応度は低下してきている、と感じる。

当面のところは、この事実上のロシア・ウクライナ戦争に、劇的な変化はないのだろう、と考えます。

マーケットに臨む際には、この紛争が長期化することを前提にして、相応の覚悟を持つ必要を感じています。

++++
++++

(2022年05月10日東京時間13:10記述)